

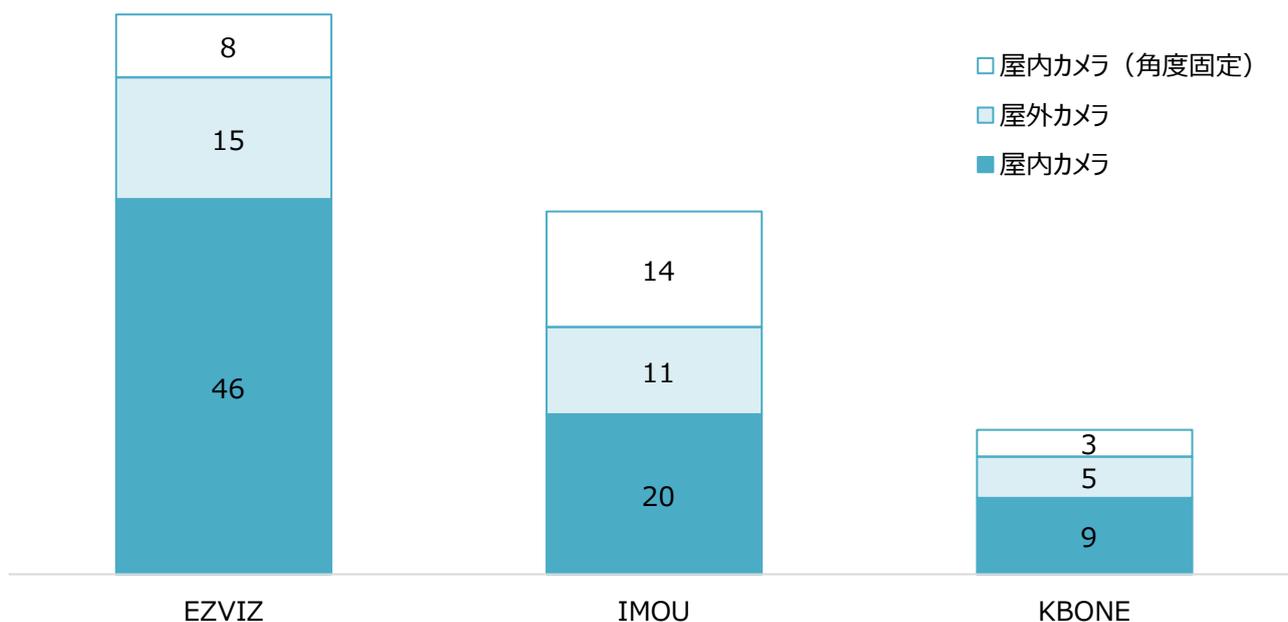
クラウド統合が進むベトナムのセキュリティカメラ

外資ブランドが優位

ベトナムでは家電や設備の遠隔操作などのスマートホーム製品の普及が進んでいるが、そのうち約22%を占めるのがセキュリティカメラやスマートロックなどのスマートセキュリティ分野である。市場規模は2020年の4,000万USDから2025年には1.2億USDと推定されている（Statista）。セキュリティカメラは260万台（2019年）が稼働中で、その需要はコロナ禍の2021年でも400万台を見込んでいる（Comparitech）。また、BKAV Technology Group（セキュリティソフト大手）の会長は、10億USDを覗う市場規模になるとの見方を強めている。

セキュリティカメラの中では無線対応機種が今後中心となっていく。その輸入量は約150万台（2020年前半）、輸入額は2,700万USD以上（2020年）である。また、自由貿易協定によりASEAN、豪州、日中韓などからは免税で輸入できるにも関わらず、EZVIZ（52%）、IMOU（31%）、KBONE（13%）の中国企業3社で約95%と独占状態である。

上位3ブランド輸入量（2020年：万台）



資料：B&Company

国内企業としては、VNPT Technology（国営）が5,000台/日の製造能力の工場を稼働させ、追撃を図ろうとしているが、中国企業の地位を脅かすには至っていない。一方、前述のBKAVは国外に目を向けている。2020年にはQualcomm（米国半導体大手）と提携し、人工知能搭載監視カメラ「AI View」を米国で発売している。欧米市場では中国製品が規制され、また競合製品より20%以上も安価なため、チャンスは大きい。

ミレニアル世代の高いリテラシー

テクノロジーリテラシーの高いミレニアル世代での需要が高い。特に都市部の若い共働き世帯では、祖父母やベビーシッターが子どもを世話する様子や一人暮らしの親を見守りたいという理由が多い。それに呼応するように、屋内監視カメラは Alexa や Google Assistant などの AI アシスタントと連携してリアルタイムで会話できるなど、従来のセキュリティ機器から日常のスマートコンパニオンへと進化している。屋外防犯カメラにはパン・チルトや暗視機能なども付いている。スマートフォンで操作しながらサーバーの蓄積データを活用可能なクラウドや IoT によるサービスと統合された機器が売れていると考えられる。

近年スマートシティ開発が進んできたが、今後は若い家族を対象としたスマートアパートが広がりそうだと (Vietnam Insider)。また、ベトナム交通運輸省道路総局 (DRVN) がドライブレコーダー設置の義務化を発表したことも追い風となりそうだが、日本企業が入り込んでいくのは厳しそうである。

参考資料

1. Statista : <https://www.statista.com/outlook/dmo/smart-home/vietnam?currency=inr#analyst-opinion>
2. Vietnam Insider : <https://vietnaminsider.vn/smart-home-to-become-a-new-trend/>
3. DRVN : <https://vietnamnews.vn/society/925490/drvn-urges-vehicle-owners-to-complete-surveillance-camera-installation.html>
4. Comparitech : <https://vneconomy.vn/thi-truong-camera-ty-usd-va-co-hoi-nao-cho-cac-doanh-nghiep-viet.htm#:~:text=T%E1%BA%A1i%20th%E1%BB%8B%20tr%C6%B0%E1%BB%9Dng%20Vi%E1%BB%87t%20Nam,%C3%AAn%20h%C6%A1n%204%20tri%E1%BB%87u%20chi%E1%BA%BFc>